

有限会社佐々木化工所

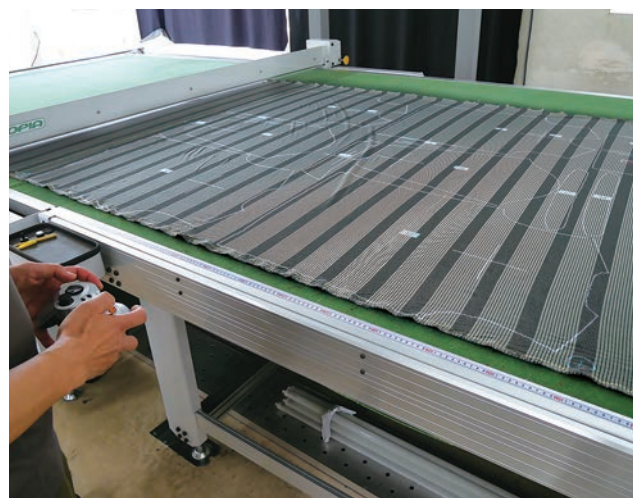
仙北市角館町白岩上西野245

全自動CAM導入により、裁断工程のボトルネックを解消 低生産性による受注見送りを回避し、付加価値の高い受注を獲得

【事業計画名】機能一体型全自動裁断機導入による高付加価値商品の生産効率向上と安定化



導入した全自動カットシステム



生地へ投影された型紙を柄合わせのため修正している様子

取り組みの経緯

佐々木化工所は布帛（ふはく 伸び縮みの無い織物）およびカットソー（編物を裁断・縫製したもの）のいずれにも対応可能な技術・生産ノウハウと設備を有しており、熟練工員が多数在籍する。大手ブランド向けゴルフウェアなどのスポーツ衣料やセレクトショップ向けブルゾン・コート類などのカジュアル衣料、官公庁向け防寒着などの官需衣料を手掛けている。

百貨店や専門店で販売されていた主力製品がリーマンショックを境にさらに苦戦を強いられたため、その後も売上が伸長し、市場の拡大が見込まれていたラグジュアリーブランドとの取引拡大に注力した。しかし、これらブランドの製品は付加価値が高い反面、複雑な仕様であるため、裁断工程の生産性が低下。縫製工程への裁断品供給が滞るなど生産計画に支障をきたしたことから、裁断工程の生産性向上を検討した。

実施内容

これまでは3名で1日あたり150着分の裁断が限界であったほか、柄物の生地やサンプル品は裁ちばさみで手作業により裁断を行っていたことから、リードタイムが長くなり生産性低下の一因となっていた。そこで、耳揃え自動解反装置、連続カットスタッキングシステム装置、プロジェクター柄合わせシステム装置が一体化した全自動カットシステムを導入。生地の供給から型紙の投影、裁断、パーツ搬出まで自動で行われるため、裁断工員は生地へ投影された型紙と生地の柄の修正に専念することが可能となり、1名で1日あたり350着分の裁断が可能となった。

柄物の生地やサンプル品は型紙データ作成を含めても作業時間が1/5に短縮した。多種に渡るサンプル品を従来よりもスピーディーに提供することができるようになり、受注機会の拡大にもつながった。

事業の成果

従来は納期を優先するあまり、裁断工程と刺繍などの二次加工の進捗状況に合わせ縫製ラインを随時変更していた。このため、生産計画見直しによる時間・人的ロスが発生するなど非効率な生産体制となっていた。しかし、本事業後は計画に沿った生産体制が確立し、ライン毎に製品を固定したことで生産性が向上。納期に追われ、見送りせざるを得なかった受注の獲得が可能となった。また、受注の約4割を占める自社企画製品について、着やすさや美しいシルエットを追求したもの、斬新なデザインを表現したものなど、付加価値の高い製品を提案することで収益力は向上している。



柄合わせしたデータを基に自動裁断



両袖口の柄合わせに狂いのない製品例



無地の生地は既存のCADで複数枚を裁断

補助金申請書の作成は苦労しましたが、それ以上に自社や業界、具体的な数値などを詳細に考えたことで、今後の会社運営、事業戦略、地域貢献等を考える素晴らしい時間が過ごせました。

当社には障害のある方や70歳超の高齢者、外国人実習生も複数名在籍しており、全従業員が安心して生き生き・若々しく仕事ができるよう「生きがい雇用」の環境づくりを行っています。今後も会社理念である「地域経済の活性化」と「地域社会への奉仕精神」、「共に安心して暮らせる社会」を実現できるよう、社員一丸となって努力していきたいと考えています。



代表取締役
高橋 義敬さん

今後の活動予定

縫製ライン固定後も難度の高い仕様を誰でも縫製できるよう多能工の育成を強化しており、これが当社の強みとなっている。一方、厳しい雇用環境を踏まえ、従業員の作業負担軽減に繋がる先端設備機械を導入し、自動化・省力化も進めている。また、対応可能な商品範囲の拡大に向けて、厚手生地向けのミシンを複数台導入するなど新たな受注機会の獲得にも余念がない。

高橋社長は「経営環境や今後の事業戦略、地域貢献などを含め、補助金申請は自社を見つめ直す良いきっかけとなった。本事業への取り組みを踏まえ、対応可能な部分から設備導入を進めている。」と語る。



有限会社佐々木化工所

代表者	代表取締役 高橋 義敬
設立	昭和60年1月
資本金	800万円
従業員数	62名
業種	繊維工業
TEL	0187-55-1331
FAX	0187-54-4480
Eメール	ta1331@deluxe.ocn.ne.jp